

逍遙館長のところ

「外なる敵と内なる敵、のころ」

5月10日 逍遙^{しやう}

今日5月10日(1863年)は、当時、攘夷運動の中心となっていた長州藩が、現在の関門海峡を封鎖し、航行中の米国商船に無通告で砲撃を加えた日です。以後、23日には仏軍艦を、26日には蘭軍艦を砲撃したのでした。

その後も、同年8月の「八月十八日の政変」や翌年7月の「禁門の変」など、長州藩は攘夷運動の中心的存在として行動しましたが、1864年8月、英仏蘭米の四カ国から成る連合艦隊の徹底した報復砲撃を受け、長州藩は海峡の砲台をことごとく無力化されてしまったのでした。

この結果、長州藩は攘夷が不可能であることを知り、その後(1866年1月)、薩摩藩と薩長同盟を締結、倒幕への道を進むこととなったのです。

尤も、その間にあっても当時の薩摩藩は、前回の「逍遙館長のところ」でご紹介した「四侯会議(1867年5月)」でも触れたとおり、国父・島津久光の下、公武合体を依然模索していたのですが・・・

◎ 次回の予定「歴史の選択は紙一重、のころ」

